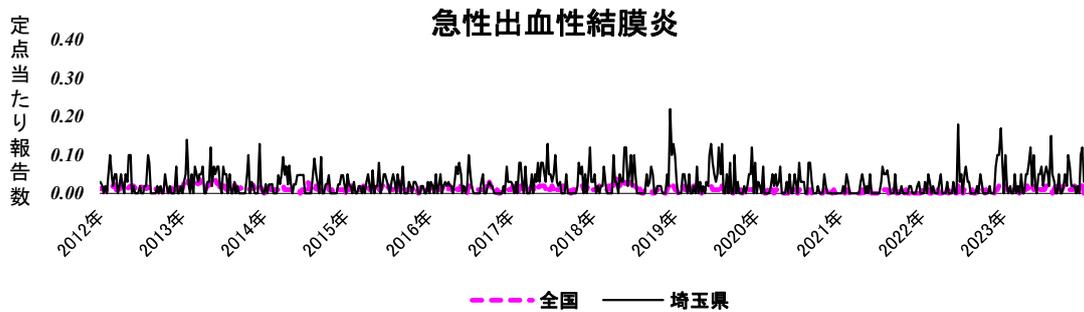


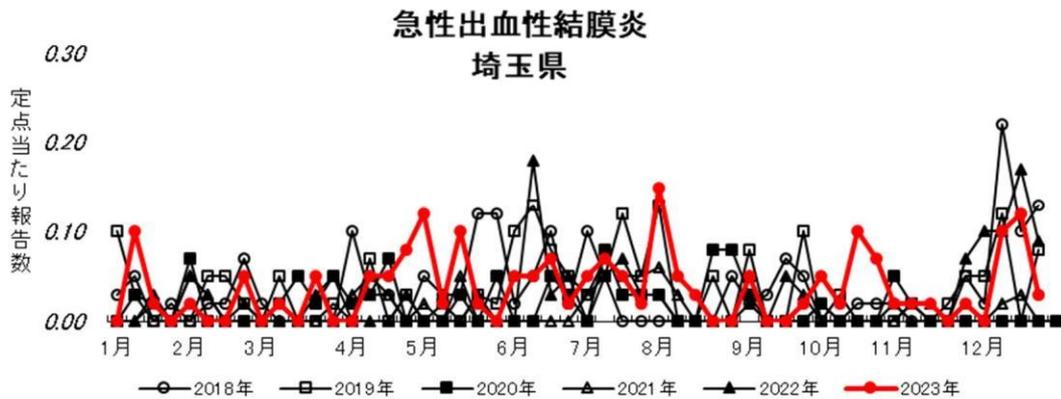
4 眼科定点把握対象疾患の動向

1) 急性出血性結膜炎

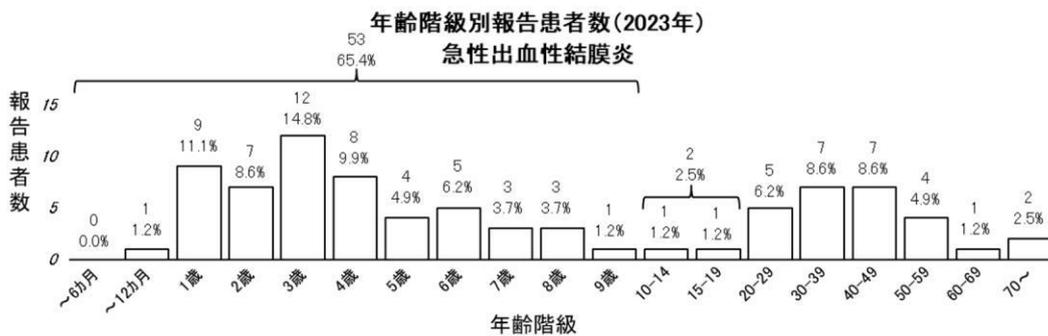
2023年第1週～52週の累積報告患者数は81人であった。定点当たり報告患者総数1.98は前年と比べ増加した。報告は年間を通して断続的に観察された。定点当たり報告数の最大値は、第31週(7/31～8/6)の0.15であった。年齢階級別では、3歳、1歳、4歳の順に多かった。



図Ⅱ-12-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：急性出血性結膜炎）



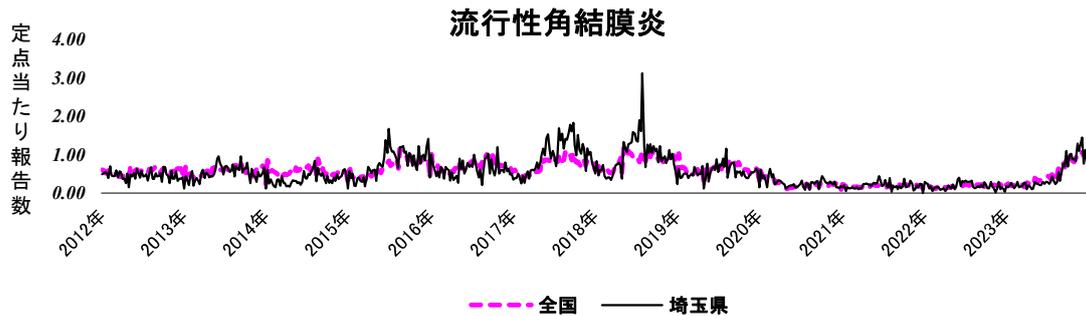
図Ⅱ-12-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：急性出血性結膜炎）



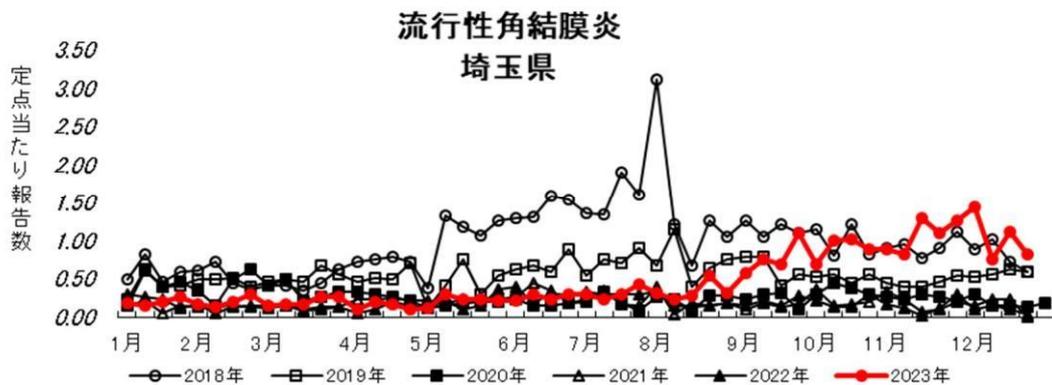
図Ⅱ-12-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：急性出血性結膜炎）

2) 流行性角結膜炎

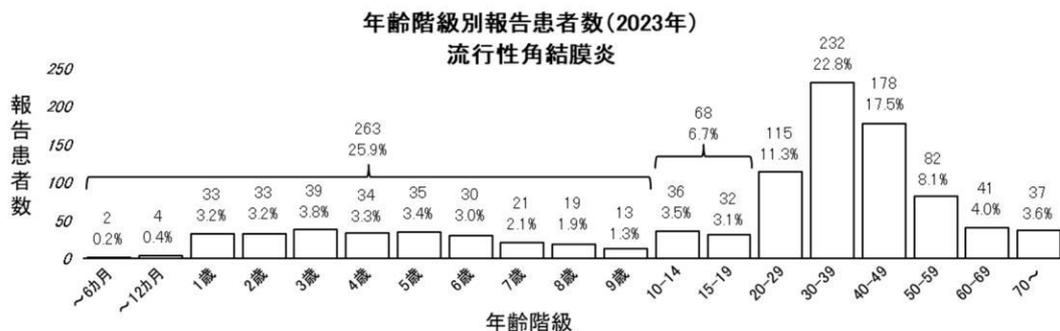
2023年第1週～52週の累積報告患者数は1,016人であった。定点当たり報告患者総数24.78は前年と比べ著しく増加した。定点当たり報告数の最大値は第49週(12/4～10)の1.45で、定点当たり報告数は1月～8月までは低い水準で推移したものの、9月上旬から増加し始め、9月下旬以降は多い状態が続いた。年齢階級別では、全ての階級で報告があり、10歳未満では3歳が最も多く、20歳以上では30歳代、40歳代の順に多かった。



図Ⅱ-13-1 定点当たり報告患者数の年推移（全国比較：流行性角結膜炎）



図Ⅱ-13-2 定点当たり報告患者数の推移（埼玉県：流行性角結膜炎）



図Ⅱ-13-3 年齢階級別報告患者数（埼玉県：流行性角結膜炎）